

2010年1月1日発行 (通巻12集)

webmodelers 増刊 プラモガイド

# 1/72 アメリカ海軍現用機 Vol.1

サンプル版

## モデリングガイド

F4D-1 スカイレイ  
F-8E クルセーダー  
F9F-2 パンサー  
F9F-8 クーガー  
F11-1F タイガー  
F-4J ファントム  
A-3B スカイウォーリア  
A-4F スカイホーク

## 新世代戦闘機

F-32  
F-35B

## 実機Photo集

F-8 クルセーダー  
F-11 タイガー  
F-4N ファントム

## 塗装講座(ハイビジ編)

塗料と塗装用具  
塗装手順 RA-5C を作る



web-modelers

# webmodelers 増刊 プラモガイド 1/72 アメリカ海軍現用機 Vol.1

Index	イントロダクション
<p>(Section 1) <b>モデリング ガイド US NAVY AIRCRAFT</b></p> <p>F4D-1 スカイレイ (1/72 タミヤ)                      F-8E クルセーダー (1/72 アカデミー)                      F9F-2 パンサー (1/72 ハセガワ)                      F9F-8 クーガー (1/72 ハセガワ)                      F11-1F タイガー (1/72 ハセガワ)                      F-4J ファントム (1/72 エッシー)                      A-3B スカイウォーリア (1/72 ハセガワ)                      A-4F スカイホーク (1/72 ハセガワ)</p> <p><b>新世代戦闘機</b></p> <p>F-32 (1/72 タミヤイタレリ)                      F-35B (1/72 タミヤイタレリ)</p>	<p>1/72 米海軍現用機第 1弾として、有名 10機の1/72 プラモデルキットを選び、本誌ライター 厚木の助さんと 横田の角さんが 作品写真で、組み立て、塗装、マーキングまで プラモデル趣味の楽しさを ガイドしています。</p> <p>戦闘機と攻撃機は最も美しいと言われた朝鮮戦争からベトナム戦争の時代のハイジビ塗装を、また、F-32とF-35は実戦配備予想機のマーキングを施しており バリエティ豊かな機体が登場します。見るだけでも、プラモデル製作の楽しさを感じることができる作品です。</p> <p>いずれも 弊誌webモデラーズ 2009年2月創刊号から 2009年11月号までに掲載された連載記事を増刊用に構成し直し、各機の簡潔な実機解説を加筆しています。きっと あなたも作ってみたいくなるはず。</p>
<p>(Section 2) <b>実機写真集 US NAVY AIRCRAFT</b></p> <p>F-4N ファントム (24ショット)                      F-8 クルセーダー (14ショット)                      F-11 タイガー (6ショット)</p>	<p>実機写真集は webモデラーズ編集部が、ニューヨーク航空博物館に取材した実機写真の中から、モデリングガイドで取り上げた機種に合わせ、今は博物館となりハドソン川に浮かぶ空母イントレピッド甲板上にならぶ F8クルセーダー、F-11 タイガー、F-4N ファントムの 3機のカラー写真を集めています。</p> <p>モデリングの参考になる細部写真を選び、特に 資料の少ない脚部詳細や脚カバー、各部アンテナ、翼端灯、燃料投機口、エアイントレットなど気になる部分の写真がいっぱいです。</p> <p>いずれも 弊誌webモデラーズの掲載記事から 増刊用に構成し直しています。</p>
<p>(Section 3) <b>US NAVY AIRCRAFTの塗装講座(ハイビジ編)</b></p> <p>(1) 塗料と塗装用具                      (2) 塗装手順 RA-5C を作る</p>	<p>最もUSNAVY機が美しいと言われた50年代から70年代まではハイビジ(ハイビジリティ)といわれる上面 ガルグレー、下面ホワイトの 2色迷彩がほとんどです。</p> <p>塗装講座(1)では 初心者向けに、ハイビジ機の塗装に使う塗料や塗装用具、組み立てに必要な接着剤など説明します。</p> <p>塗装講座(2)では、米海軍機のハイビジ塗装について、エアブラシ塗装、マスキングによる塗装を具体的に紹介してゆきます。</p> <p>大きめで組み立てやすいマイクロエースの1/144 RA-5C ビジランティを選びました。</p>

webmodelersとして 初めての増刊号を発行する運びになりました。創刊以来、プラモデルガイドとして、プラモデル製作記事と実機写真資料を1冊にまとめた密度の濃いものをかねてから 出したいと思っておりましたが、やっと実現しました。増刊第一号の内容は2009年2月創刊号から2009年11月号の計10号の弊誌連載記事の中から、10機の米海軍現用機製作記事と 3機の実機写真を選びました。構成しなおして、読みやすく book形式に編集し PDFファイルの形でe-book としました。e-book制限一杯の 20Mバイトの大容量 となりました。webmodelersはネット上のweb マガジン形態のスケールプラモデル専門の模型誌として出発しましたが、ぜひ 主要な記事や貴重な写真資料、作品の写真をe-bookの形に残して行きたいと思っております。今後も、航空機記事だけでなく、AFVなど ジャンル別に増刊の形で発行して行きたいと考えております。未永く皆様のご支持をよろしくお願ひいたします。

webmodelers 2010年 1月号増刊 (通巻12集)

定価： 1,260円 (本体 1,200円)  
 2010年1月1日発行  
 無断転載を禁ず  
 PDFファイル無断複写および、無断配布を禁ず。

発行人： 田口博通  
 発行所 :office webmodelers  
<http://www.webmodelers.com>  
 住所 :神奈川県湘南  
 連絡先 : info@webmodelers.com





(Section 1) モデリング ガイド US NAVY AIRCRAFT

F4D-1 ダグラス スカイレイ (タミヤ 1/72)



マクダナル ダグラス F-4J ファントム (エッシー 1/72)



チャンスポート F-8E クルセーダー (アカデミー 1/72)



A-3B スカイウォーリア (ハセガワ 1/72)



F9F-2 パンサー (ハセガワ 1/72)



ダグラス A-4F スカイホーク (ハセガワ 1/72)



F9F-8 クーガー (ハセガワ 1/72)



ボーイング F-32 (タミヤ イタレリ 1/72)



F11-1F タイガー (ハセガワ 1/72)



F-35B (タミヤ イタレリ 1/72)



# 1/72 アメリカ現用海軍機 Vol.1

## (Section2) 実機写真集 US NAVY AIRCRAFT

マクダナル ダグラス F-4J ファントム (ハセガワ 1/72)



F11-1F タイガー (ハセガワ 1/72)



チャンスポート F-8E クルセーダー (アカデミー 1/72)



## (Section 3) US NAVY AIRCRAFTの 塗装講座(ハイビジ編)

### (1) 塗料と塗装用具

ハイビジ塗装に必要な塗料、塗装用具などを説明します。



### (2) 塗装手順

RA-5C ビジランティ を例に塗装の手順を詳しく説明します。





# ダグラス F4D-1 スカイレイ (タミヤ 1/72)

by 厚木の助さん



## 実機解説

1947年 海軍の艦上迎撃機要求に対し、ダグラスはドイツのリピティッシュ博士の全翼式デルタ翼機を基礎に D-571プランを提出しました。これがスカイレイのデザインの原点となっています。ドイツからの戦利品として手にいれた技術はよっぽど有用だったようで、このスカイレイの他、F102、F106、ミラージュとこの時代に基礎設計された戦闘機は皆、リピティッシュ博士のロケット機とそっくりだったので

1951年エドワーズで初飛行に成功。

全生産機数は 419機です。

海軍の15個のVF、海兵隊の9個のVMFと多くの実戦戦闘部隊に装備された主力戦闘機でしたが、全天候戦闘能力が不足したため、1963年 F3H-2 デモンと交代し、第一線を引退しています。厚木には VMA-114、542を始め、多くの部隊が飛来し、日本にもなじみの深いスカイレイです

エンジンには当初 J-40を搭載したが、不調のため、量産型ではJ57を搭載しました。FCSはAero 13 を搭載し、武装は当初は4門の20mm砲のみでしたが、爆撃機要撃用に、2.75inFFIRのポッドを6箇所のハードポイントに装備できました。1956年にサイドワインダー (AIM-9B)が実用化されると たちまち搭載されています。なお、主翼前縁に見えるフェンスは境界層板ではなく、ナイロンバリケードのすっぽ抜けを防ぐバリケードフェンスです。







今回は あの超音速艦上JET戦闘機 F4D スカイレイを取り上げてみたいと存じます。

タミヤから 1998年に端正なスジボりの決定版が発売されております。はるか昔、Airfixから唯一のもの それはそれは素晴らしい1/72が出ておりましたが、これで、完全に過去のものとなりました。

私もAirfixには、エアインテークのあまりのすごさに恐れを無し、ストックに直行。それでも、脅迫観念から懲りずに3つも買ってしまった淡い思い出がございます。

その思い出も、タミヤのキットの出現で、真珠の首飾りとなり 湘南の夏の波の合間に消え去りました。

タミヤのキットは 1/48を1/72にスケールダウンさせたもの。合いは抜群。ただし、特徴だった主翼トリムは一体となってしまう、組立てやすくはなかったものの、機体姿勢に変化をつけることができなくなりました。武装はサイドワインダーとロケットパック、増加燃料タンクと しっかり 付属しております。

スカイレイの尾翼も無いSF的な変形デルタ胴体は、胴体と翼が溶け合った、いわゆるフライング・ウイングそのもの。エアリアルールも何もあったもんじゃございません。しかし、ドイツのリビティッシュを父君に、若君にはスペースシャトルへと継ぐ血統は、並々ならぬものがございます。ちゃらちゃらしたエアリアルールのグラマー オナーチャンの佇まいとはチョイと違う技術の血統、男の世界でございます。



# 製作

## コクピット

機首が左右、胴体は上下と分割が変則です。毎度、コクピットから作り始めねばなりません。バスタブのシンプルなコクピットで、計器板と操縦桿をつければよろしい。ダークグレーで全体を塗り、パネルを黒でぬれば出来上がりでございます。おもりは釣り用を粘土でとめてしっかり放り込んでおいてください。

## 胴体とエアインテーク

胴体はエアインテーク奥のエンジンファンを仕込み、上下を接着します。もっとも、のぞいてもほとんど見えません。

主翼前縁のフェンスは上下食い違いがあると、雰囲気無しなので0.5mm プラ板で自作してみました。(写真) カミソリので前縁に切れ目を入れて、大きめのプラ板を瞬間接着剤で固定します。固まったら、丁寧に形状を出してやります。

主翼の断面形状はなかなか良いようです。機首、エアインテーク部品共、ばっちり胴体と合いますが、スムーズにつながるよう入念に整形しておきましょう。主翼のエールロン後縁は、少し薄く削っておいてやります。胴体が完成したら、グンゼ1000番サーフェーサーを吹いて、表面をチェックします。もし、ひけ、スキマなどあれば、溶きパテか瞬間接着剤をパテ代わりに使い、入念に修正しておきましょう。

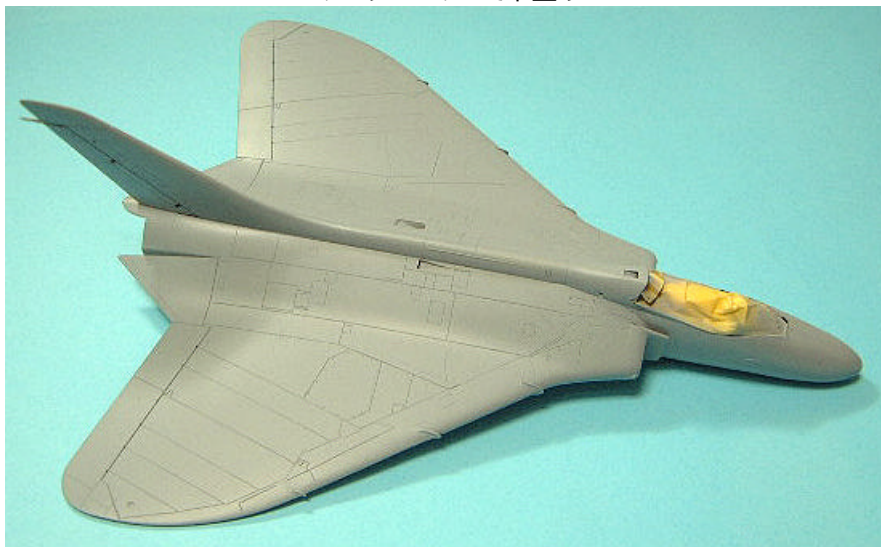
プラ板を切れ目に接着する。



ペーパーで整形



サーフェーサーで下塗り





## 塗装

塗装は マイクロデカールを使って VF-74 Be-Devilers といたしました。当時のNAVYの標準塗装で、上面 ガルグレーと 下面 ホワイトは グンゼカラーの特色を使っております。

レドームとアンチグレアは黒つやけし。主翼舵面はホワイトです。垂直尾翼エッジに黒つやけし部分があります。また翼前縁はシルバーとしました。エアインテーク前縁とラダーはREDです。

## 脚など

脚はモールドもよく修正点無し。オレオ部にアルミ箔をはってキラリ光物としておきました。アレステイングフックは 白黒の縞で塗りわけとなっています。

武装は、クリーンとし、ランチャーのみ取り付けております。

シートはキットのシートに板鉛で作ったベルトを追加。機首上部、前部キャノピー前のヒーター管？は破損し易いので、金属線で自作しました。

## 完成した佇まい

なんとというか、この時代のNAVYJET戦闘機は現代には無い独特の佇まいがそそります。それが 魅力というか、製作意欲をかきたてられるのでございます。それでは、ボロが出ないうちに、失礼つかまつります。





# 実機資料写真集 F-4N ファントム

ニューヨーク航空博物館の1950年代JET 1960年代に活躍した ファントムです。(撮影時期は2005年春)

F4N SN.150628 VMFA-323 の機体で、実戦で活躍した。

なんといっても やはりファントムは空母の甲板上に駐機しているのが最もふさわしい。

(写真1) 後部から見た全景

エンジンがはずされているので、ジェットノズルが無い他は ほぼ完全な形で展示されている。



(写真2) 機首レドーム

N型のため、B型同様にレドーム下に赤外線スキャナーのふくらみがついている。



(写真3) エアインテークベン付近





(写真4) 前脚の詳細





(写真5) 前脚ドア



(写真6) エアインテークとアンテナ など計24枚の細部写真です





# (Section 3) US NAVY AIRCRAFTの塗装講座(ハイビジ編)

## (1) 塗料と塗装用具

50年代から70年代までの米海軍機はハイビジ(ハイビジリティ)といわれる上面 ガルグレー、下面ホワイトの2色迷彩がほとんどです。  
最もUSNAVY機が美しいと言われた黄金の時代です。

初心者の方向けに、米海軍機の塗装について 使う塗料や塗装用具、塗装方法を簡単に紹介します。  
まずは ハイビジ塗装に使う塗料です。

### ラッカー塗料

塗料ですが、ハイビジ時代の米海軍機の上面はガルグレー、また下面はホワイトで塗装されていました。

GCカレオス(旧グンゼ)のMカラーシリーズの中のラッカー特色が色が正確で一番使いやすいと思います。模型店で購入できます。

上面色ガルグレー No.315 グレーFS16440  
下面色ホワイト :No.316 ホワイトFS17875  
コクピット内ダークガルグレー No.317 グレーFS36231

を使います。

その他に  
翼前縁とタイヤ : つや消しブラックNo.33  
ジェット吸入口 : レッド No.3  
ジェット排気口、脚オレオ : シルバーNo.8  
(ジェット排気口はシルバーとブラックを混合します。)

以上 計6色があれば とりあえず、塗装できます。  
余裕があれば、他の色も買い揃えると良いでしょう。

下はGCカレオスのMカラーの写真です。

No.315 グレー、No.316 ホワイト、No.317 ダークグレー



No.3 レッド、No.8 シルバー、No.33 ブラック



### シンナーとマスキングゾル

この他に、塗料薄め用のエアブラシ用シンナー と 塗装時のマスキングに使うマスキングゾルを用意します。

エアブラシ用シンナー

マスキングリキッド  
(マスキングゾル)



### スミイレ用塗料

スミイレ用に 油彩のローアンバーと油彩用溶き油のPETROLを使います。ローアンバーはこげ茶色のような色です。文具店や画材店で購入できます。

クサカベのローアンバー PETROL



# 塗装用具

次は塗装に必要な用具について説明します。  
必要なものは 次の4種類です。

- (A)面相筆
- (B)塗料皿
- (C)エアブラシ
- (D)コンプレッサー

## (A) 面相筆

面相筆は安いもので結構です。1本あればOKです。  
文具店で購入できます。面相筆には太さでNoがついている  
ので、No.0という太さを探してください。

写真は BUNSEIDOの面相筆 No. 0



## (B) 塗料皿

塗料皿ですが、わざわざ購入しなくても 台所にある弁当  
用のアルミオイルケース皿 (8号くらい)が流用できます。10  
0枚で100円くらいですから使い捨てにしても大変安いもの  
です。



模型店で専用の塗料皿を購入するのであれば、万年とい  
うメーカーの塗料皿(下のような写真のもの)を購入すればよ  
いでしょう。5枚で200円くらいです。

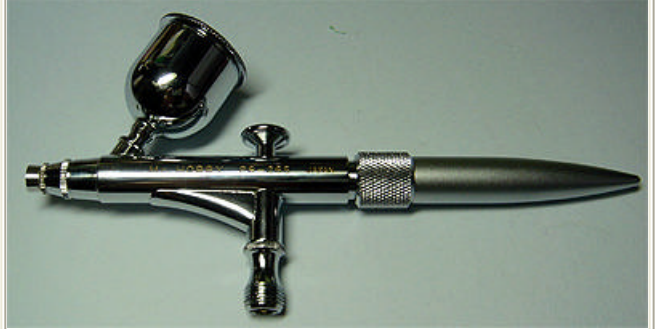


## (C) エアブラシ

エアブラシ塗装が筆ムラも出ず、一番簡単です。エアブラ  
シは最初は高級なものを揃える必要は全くありません。

私は一番安いGCカレオスのMr.Hobby PS265というシン  
グルアクション 0.3mm口径のものを愛用しています。  
ヨドバシで7000円くらいで購入できます。

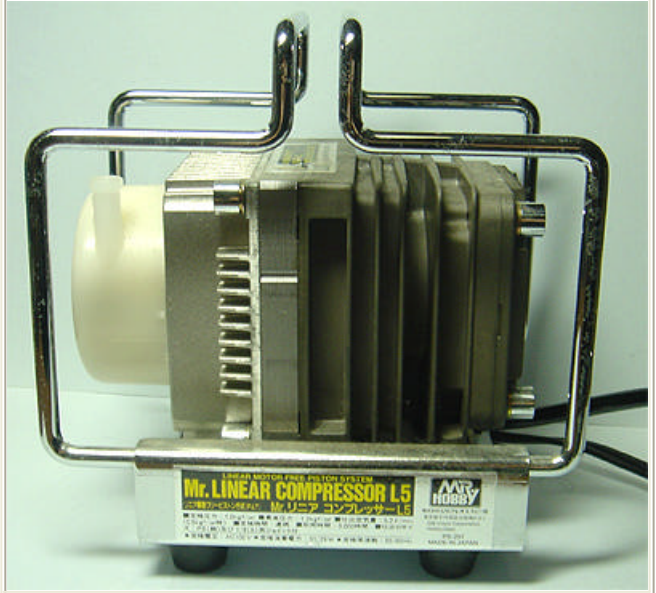
エアブラシ Mr.Hobby PS265



## (D) コンプレッサー

エアブラシは圧縮空気を使いますので、コンプレッサーが  
必要です。GCカレオスの Mr.リニアコンプレッサーL5  
が振動もほとんど無く静かで、手ごろな価格で購入できま  
すのでお薦めです。定価25000円のものヨドバシなどで  
は20000円くらいの値引きで入手できます。最初は高いと  
感じますが、コンプレッサーは丈夫なので一度買うと一生  
モノです。

Mr.リニアコンプレッサー L5





# 組み立てに必要な 接着剤と おもり

航空機プラモデルを組み立てる際に必要な接着剤やおもりについて紹介します。

購入できる場所  
おもり： スーパーの文具コーナー  
接着剤： 模型店、ホームセンター、スーパー

## 接着剤

航空機プラモデルに使う接着剤は タミヤセメントの流し込みタイプが一番使いやすいようです。ふたについている付属の筆で接着部にごく少量流し込みますと、スチロールプラスチックが溶解し強固に接着されます。

タミヤセメント(流し込みタイプ)



## 多用途接着剤

脚、脚カバー、アンテナなど小物の接着には 粘度の高い接着剤を使います。私はプラスチック用でなく、3Mの多用途強力接着剤(合成樹脂系)を使用しています。固着までに時間の余裕があり位置決めが便利で、脚カバーを胴体に「いもづけ」する際に威力を発揮します。動かぬ固定が必要な場合は、多用途接着剤で仮止めし位置決めしてから瞬間接着剤で固めます。ホームセンター、スーパーの日用品コーナーで購入できます。

3M 多用途強力接着剤(合成樹脂系)



## 瞬間接着剤

固着までの時間が短いので、主翼上半角を決める際に威力を発揮します。また、主脚を固める際に使います。小さい段差を埋めるパテがわりにも使います。スーパーの文具コーナーでも購入できます。

ボンド アロンアルファ

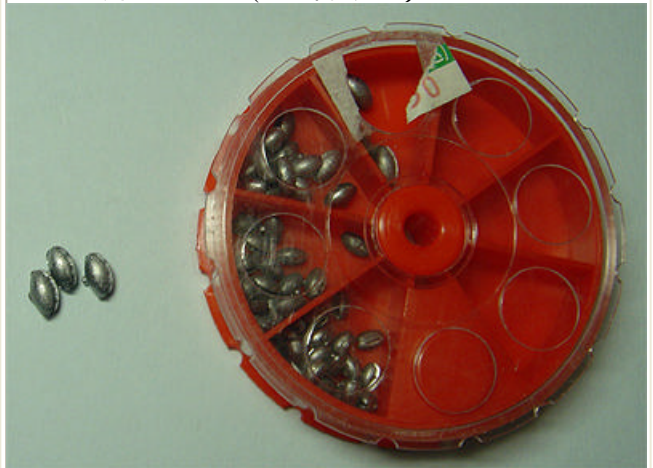


## おもり

前脚があるジェット機は重心が後部にありますので、オモリを機首に仕込んで胴体左右を接着しなければなりません。また、おもりが機首の中で動かないように油粘土で留めておくようにします。

オモリはつり用のオモリセットを一貫しておくといいでしょ。わざわざ「つり具屋」に行かなくても、ホームセンターなどでも売っています。油粘土は文具屋か 最近はスーパーの文具コーナーでも 子供用の「あぶらねんど」が売っていますので、それを使います。

つり用おもりセット(200円くらい)



子供用あぶらねんど(150円くらい)



## パテ

胴体左右の接着部の段差やプラスチックのヘコミなどを埋めます。模型店で入手しやすいタミヤから発売されているチューブ入りの「タミヤパテ(ベーシックタイプ)」が使いやすいと思います。

タミヤパテ



## (2)米現用海軍機モデルの 塗装手順 (ハイビジ編) RA-5C ビジランティ(マイクロエース 旧オオタキ 1/144)

by webモデラーズ発行人 田口博通

米海軍機、米海兵隊機は 厚木や岩国に駐留しているため、US NAVYフリークも多く 写真やグッズを集めるだけでなく、自分でプラモデルを作って飾ってみたいと思う方が多いようです。webモデラーズにも そんな方からお便りをいただきます。

プラモ店に行くと、迷うほど多くのキットが棚に並んでいます。気に入ったモデルの箱を開けてみると、部品点数が非常に多く、塗装も必要であることがわかり 敷居が高いことがあるとのこと。

プラモデルの組み立て方法について、最近では書店マニュアル本が多くなっています。ただ、それらは 艦船やガンダムや戦車のマニア的な塗装方法や改造法の紹介が多く、そんなに手間がかかるのであればと二の足を踏むことがあるようです。

50年代から70年代までの米海軍機はハイビジといわれる上面 ガルグレー、下面ホウワイトの2色塗り分けがほとんどです。最もUSNAVY機が美しいと言われた黄金の時代です。

初心者の方向けに、米海軍機のハイビジ塗装について、エアブラシ塗装、マスキングによる塗装を具体的に紹介してゆきます。

組み立てるモデルには低価格で部品点数が少なく、組み立てやすいわりに大きめのプラモデルとして マイクロエースの1/144 RA-5C ビジランティを選びました

組み立てに必要な接着剤や、塗料、塗装に必要な用具は別ページにまとめてありますので、そちらを参照してください。



### 実機解説

まずは、実機をよく知ることが興味の第一。  
NAVYで使われた偵察機 RA-5Cはどんな飛行機だったのでしょうか？  
「実機解説」です。

#### 実機解説」

ノースアメリカンRA-5C偵察機は核攻撃機A-5シリーズから発達し、1962年に初飛行しました。A-5A攻撃機は1955年に空母に配備され米国の核報復能力の一端を担っていましたが、SLBM搭載原子力潜水艦の配備により、空母搭載の核攻撃兵力の必要がなくなりお役ご免となったところ、大型でパイロットに余裕があることを生かし、偵察機に転用されたわけです。

偵察カメラ、各種センサーなど偵察機材が機体下面のカヌー型ポッドに追加されています。各空母に分遣隊が派遣され、ベトナム戦争ではSAMサイトの偵察などに全期間使われました。

マッハ2級の性能を持っていましたので、落とされた機体は少なく、ほぼ全機が退役後デビスモンサンにモスボールされて収められています。

全長 22.31m  
全幅 6.15m  
乗員 2名  
最大速度 マッハ2



## キットについて

旧オオタキのRA-5C ビジランティはアライを経て現在はマイクロエースから発売されています。写真の箱絵はアライ時代のものです。実機が大きいため、144でもちょっとした72ジェット機くらいの大きさがあります。

モールドは端整なスジボリで、スタイルの良さには定評がありました。キャノピーの形状や、脚部品もしっかりしており、名キットの評価もあります。エアインテーク部にストレーキ付の後期型が再現されていて、デカールは米太平洋艦隊のNKのマーク エンタープライズ搭載機のものが入属していました。

スーパーデカールから別売りデカールも発売されていたので、塗装を変えて揃えることも可能です。

箱絵 (アライ時代のもの、現在はマイクロエースと社名が変わっている)



## 製作

144ですから、オモリを機首に仕込んで胴体左右を接着し、主翼、尾翼を接着すれば、すぐ形にすることができます。コクピット内を最初に作る必要はありません。

手を加えた方がいいのは機首のピトー管です。模型店で0.5mm径のシンチュウ線を購入して、先をヤスリで少し尖らせ、瞬間接着剤で機首レドーム先端に接着し、根元の形状を丁寧に整形しておきます。

1日以上経ってから胴体と翼の接着部を600番くらいの耐水ペーパーで削ってなめらかに整形します。キットは翼の後縁も薄くシャープですし、胴体背中のふくらみもこんなものでしょう。

胴体下面の偵察機材が入ったカヌーも接着しておきます。これで塗装前の機体はできあがりです。

胴体下面写真



# 塗装手順

塗装の手順を具体的に紹介します。

GCカレオスのプラモデルラッカー 塗料特色の  
上面色ガルグレー :No.315 ガルグレーFS16440  
下面色ホワイト :No.316 ホワイトFS17875  
を用意します。

(1)まず、全面を上面迷彩色のガルグレー315でエアブラシで塗装してしまいます。このガルグレーは下塗りを兼ねているわけです。

(2)次に全面をマスキングゾルを2度塗りして、マスクしてしまいます。乾燥したら、ホワイト色に塗装する場所(舵面、下面、垂直尾翼)のマスキングをナイフでカットして取り去ります。

(3)乾いたら、ホワイトNo.316で全面を塗ります。

(4)マスキングを丁寧に剥がします。

(5)その後、細部をマスキングしながら、面相筆で塗っていく

この手順が一番簡単です。

## (注意点)

(1)エアブラシ用に塗料をシンナーで薄める濃度はおよそ塗料1に対し、シンナー2程度ですが、これは季節でも、エアブラシの口径でも変わりますので、実際に自分で試してみてください。

薄すぎるといくら吹いても色が留まらず、濃すぎるとモスラのように糸を引きます。エアブラシの塗料濃度は悩ましいですが、必ず習得する必要のあるスキルです。

(2)マスキングゾルは必ず、2度塗りが必要です

ハセガワから乾くとオレンジ色になるマスキングゾルがでていますので、それを使われるとよいでしょう。一本買うと10機分くらいは作れます。カッティングはよく乾いてから行ってください。ナイフには私はよく切れる貝印の片刃かみそりを使っています。

(3)主翼のガルグレーとホワイトの塗り分けは、舵面に沿っているわけではないので、注意が必要です。(下写真を参考に)

垂直尾翼はオールフライング式可動なので、全面ホワイトとなります。

## ガルグレー 全面塗装 そして マスキング

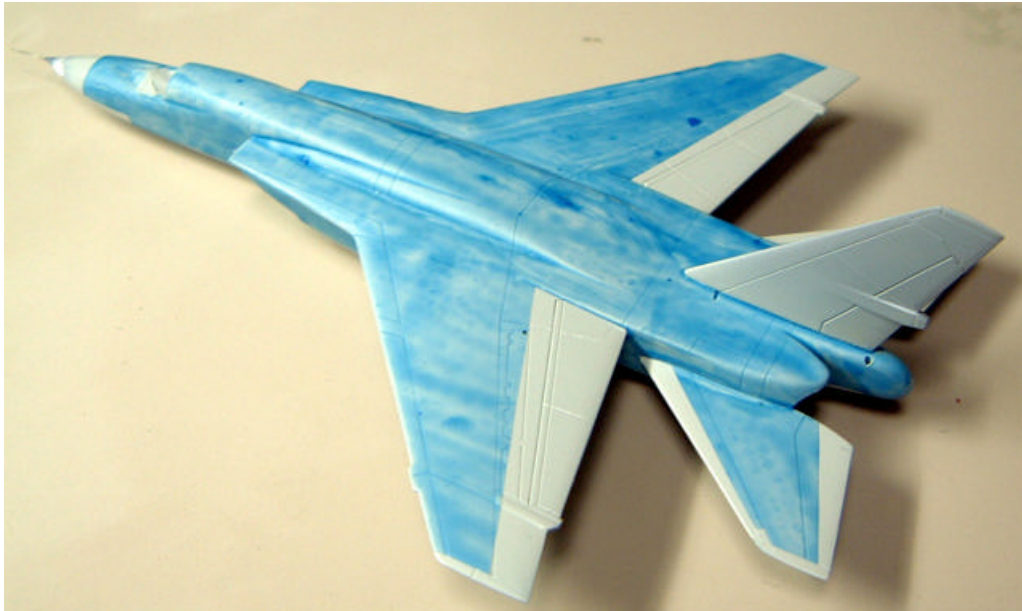
組みあがった胴体をガルグレーで全面を塗ります。

そして、マスキングゾルを塗り、乾いたらホワイトになる部分をナイフでカットします。

機体下面、機首レドームと可動舵面が基本的にホワイトになります。

ビジランティは垂直尾翼が全面ホワイト、又尾翼前縁もホワイトです。

主翼、尾翼上面はガルグレーとホワイトの塗り分け線に注意で、下の写真のように塗りわけます。





## ホワイトの塗装

エアブラシでホワイトをマスクングを剥がした場所全面に塗装します。



マスクングゾルをはがすと この通り きれいな塗りわけが実現できました。



## 細部塗装

次に主翼前縁など細部を塗って行きます。

主翼前縁にはホワイトのアンテナ部分とブラックの前縁部分があります。  
ホワイト部分を筆で塗って乾いたら、ブラック部分を塗装するために、マスキングソルを塗ります。  
マスキングソルが乾いたら、ブラックになる部分だけナイフでカットして剥がします。



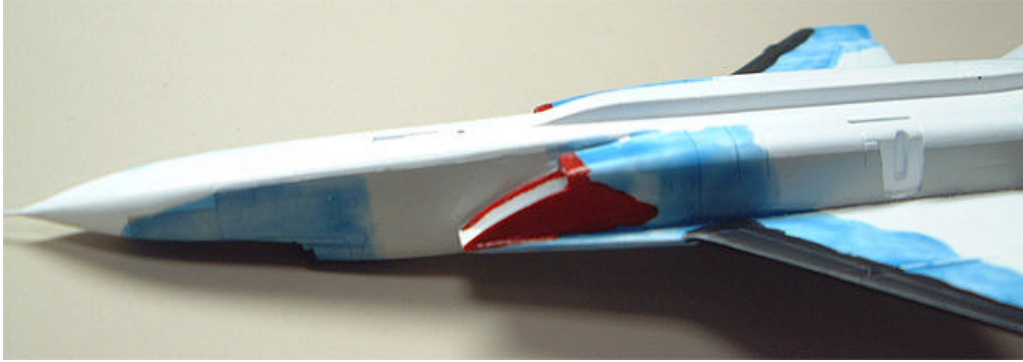
黒つや消しを筆塗りで塗装します



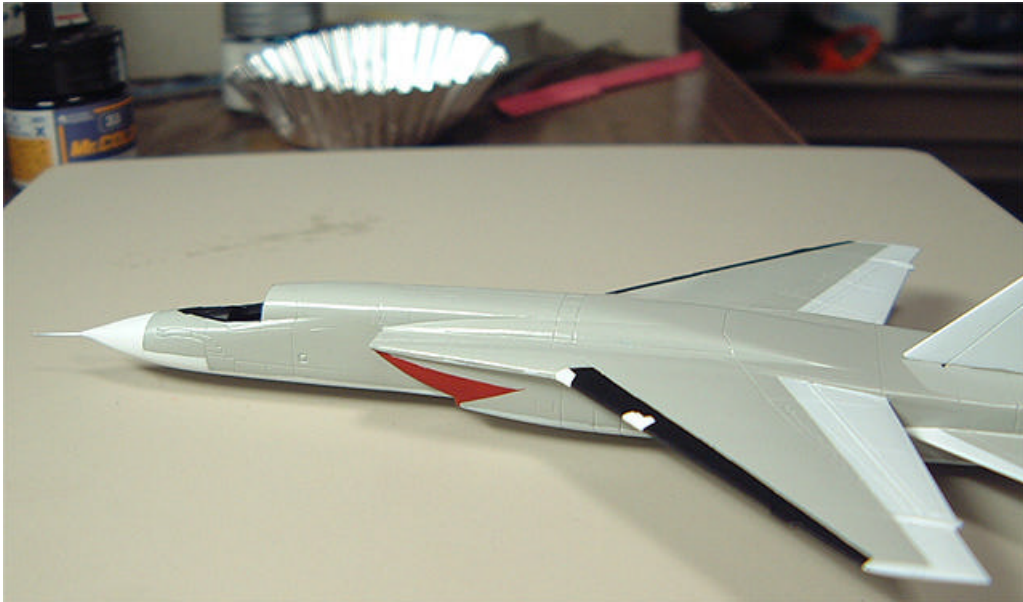


## エアインテークリップのレッド塗装

エアインテークリップはレッドになっています。  
同様にエアインテークをマスキングしてレッドを塗装します。



マスキングをはずすとこの通り 主翼前縁もエアインテークリップもシャープな塗りわけになりました。  
後ろに写っているのは アルミ箔のホイールカップですが、塗料皿代わりに使っています。右に見えるのは貝印の片刃のカミソリ。マスキングソルをカットするのにナイフ代わりに使っています。



## 面相筆で細部塗装

面相筆で 主脚をホワイトで、車輪はブラックで、シートもブラックに塗ります。  
尾部の排気口部分はブラックにシルバーを混ぜて、焼け鉄色を作り、同様に面相筆で塗ります。  
コクピットは見える範囲をダークガルグレーNo.317で面相筆を差し込んで塗り、  
グレアシールドはブラックに丁寧に塗っておきます。

シートはブラックで塗装      グレアシールドもブラックで



デカールを丁寧に貼りましたら、これで塗装は完了。  
ここで手間かけて クリアーNo.46 を薄く吹いて保護しておくくとデカールがはがれず 長持ちします。

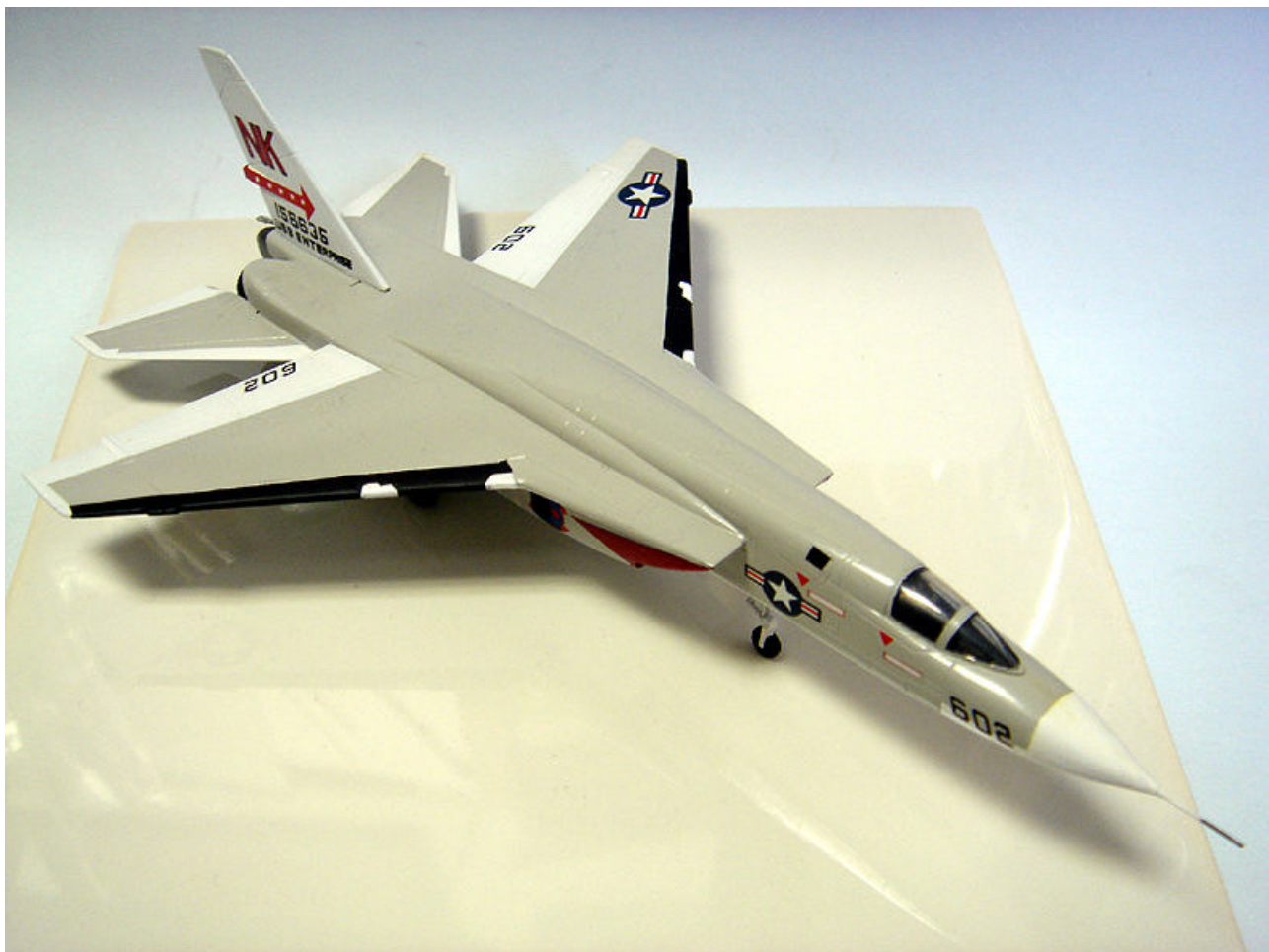


キャノピーを接着すれば 完成！  
(キャノピーも マスキングゾルを使って同様にガルグレーで塗り分けておきます。)





## 完成写真



いかがだったでしょうか。マスキングソールを使って丁寧に塗り分ければ  
思ったより簡単にここまでたどり着けると思います。  
広い面積はマスキングテープを使ってもかまいません。

USNAVYハイビジ機の塗装でした。

あなたも完成すれば、ぜひデジカメで写真を撮って メール添付で  
月刊NET模型誌「webモデラーズ」の「誌上個展コーナー」あてお送りください。

送り先は [info@webmodelers.com](mailto:info@webmodelers.com)  
お待ちしております。

(webモデラーズ編集部)